

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	可	
授業科目名	「人間の発達と健康」概論		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N02001	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	1年 前・後期セメスター		単 位	2単位 60時間		
科目責任者	横山京子	そ の 他	R01002 と前期共通			
担当教員	第1部：行田智子、横山京子、田村文子、中西陽子、狩野太郎			第2部：松田安弘		
授業の概要	母胎期から老年期に至る人間の正常な発達過程と各時期の健全な発達を脅かす要因、各時期の人間に共通する正常から逸脱した健康状態とその回復過程を学習する。「発達」の概念を学習し、これを前提として人間の健全な発達過程とこれを脅かす要因をライフサイクルに沿って理解する。また、それぞれの時期に共通する正常から逸脱した健康状態を細胞レベルから日常生活レベルにいたる様々な段階から学習する。各論で展開される各発達段階における正常な健康状態と正常から逸脱した健康状態の理解の前提となる授業である。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：身体・心理・社会的存在としての人間とその一生を、発達と健康という視点から統合して学習し、看護学及び診療放射線学の対象理解を促進する。</p> <p>目標：1. 発達の概念および一般の原理、発達に影響する要因の学習を通して、人間のライフサイクルにおける正常な発達の重要性を認める。</p> <p>2. 発達理論の歴史的展開を学習することにより、人間発達観の変遷と発達理論の概要を理解する。</p> <p>3. 人間のライフサイクルの各時期における形態・機能的特徴を学習し、人間の形態・機能的側面の発達の法則性とメカニズムを理解する。</p> <p>4. 人間のライフサイクルの各時期における心理・社会的特徴を学習し、人間の心理・社会的側面の発達の法則性とメカニズムを理解する。</p> <p>5. 人間のライフサイクルの各時期における健全な発達を阻害する因子について学習し、健全な発達過程を送るために必要な身体的・心理的・社会的支援の重要性を理解する。</p> <p>6. 1から5を通して、人間を対象とする専門的職業における発達の理解の重要性を認める。</p> <p>7. 人間のライフサイクルの各時期に共通あるいは特有の機能障害のメカニズムを学習し、細胞レベルから日常生活レベルの健康状態を理解する。</p> <p>8. 人間のライフサイクルの各時期に共通する正常から逸脱した健康状態の回復過程とその特徴を理解する。</p>					
授業の内容と方法	<第1部：人間のライフサイクルと発達>授業内容		授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	4/10 「人間の発達」を学習する意義と重要性、発達の概念	講義 演習	教科書「看護のための人間発達学」精読 第1章 p.4-18	横山	
	2	4/17 発達の一般原理、発達に影響する要因			横山	
	3	4/24 母胎期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成		第3章 p.62-78	行田	
	4	5/8 に向けた支援、胎児の発達及び胎児を取り巻く人々の発達に与える影響			行田	
	5	5/15 乳幼児期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成		第4章 p.82-114 第2章 p.30-33 p.35-40 p.40-43 p.49-53	横山	
	6	5/22 に向けた支援、エリクソンの自我発達理論、ピア			横山	
	7	5/29 ジェの認知発達理論、ボウルビイの愛着の理論、ハヴィガーストの理論			横山	
	8	6/5 学童期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援		第5章 p.116-138	横山	
	9	6/12 思春期・青年期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題		第6章 p.140-167 第7章 p.170-195 第2章 p.33 p.53-54	田村	
	10	6/19 とその達成に向けた支援			田村	
	11	6/26 成人期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成		第8章 p.198-222 第2章 p.33-34 p.43-48 p.55	中西	
12	7/3 に向けた支援、レビンソンの成人の発達理論	中西				

	13	7/10 老年期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達		第9章 p.224-261 第2章 p.34 p.56	狩野
	14	7/17 成に向けた支援			狩野
	15	7/24			狩野 / 横山
	<第2部：各時期に共通する正常から逸脱した健康状態と回復過程> 授業内容		授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	10/5 循環機能障害とその回復過程 (1)	講義 演習	必要に応じて学習課題を提示	松田
	2	10/15 循環機能障害とその回復過程 (2)			
	3	10/19 循環機能障害とその回復過程 (3)			
	4	10/26 呼吸機能障害とその回復過程 (1)			
	5	11/2 呼吸機能障害とその回復過程 (2)			
	6	11/6 呼吸機能障害とその回復過程 (3)			
	7	11/16 消化・吸収機能障害とその回復過程 (1)			
	8	11/30 消化・吸収機能障害とその回復過程 (2)			
	9	12/7 消化・吸収機能障害とその回復過程 (3)			
	10	12/14 排泄機能障害とその回復過程 (1)			
	11	12/21 排泄機能障害とその回復過程 (2)			
	12	1/4 排泄機能障害とその回復過程 (3)			
	13	1/18 運動・感覚機能障害とその回復過程 (1)			
	14	1/25 運動・感覚機能障害とその回復過程 (2)			
	15	2/1 運動・感覚機能障害とその回復過程 (3)			
評価方法	第1部：課題レポート 30%、筆記試験 70% 第2部：筆記試験 100% 第1部と第2部の総合評価 ※15回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する				
教科書	第1部：舟島なをみ著 看護のための人間発達学第4版 医学書院				
参考書 参考文献等	・氏家幸子監修：母性看護学、廣川書店 ・山口規容子他訳：ヒトの成長と発達、メディカル・サイエンス・インターナショナル ・その他、講義中に必要に応じて適宜提示する				
備考	・課題図書「時実利彦：人間であること 岩波新書」 ・第1部終了時にレポート提出				